



喜劇のはずなのに、涙が止まらない まつプロ公演「父と暮せば」

< ものがたり >

「うちはしあわせになってはいけんのじゃ」

愛する者たちを原爆で失った美津江は、一人だけ生き残った負い目から、恋のときめきからも身を引こうとする。

そんな娘を思いやるあまり「恋の応援団長」をかけてでで励ます父・竹造は、実はもはやこの世の人ではない――。

「わしの分まで生きてちょうだいよー」父の願いが、ついに底なしの絶望から娘をよみがえらせる、魂の再生の物語。

—新潮社「父と暮せば」より—

◆鹿目由紀／作・演出◆

(劇団あおきりみかん主宰・劇作家・演出家)

昨年、この井上ひさしさんの名作と初めて向き合いました。原爆投下から3年経った広島で懸命に暮らす人々の優しさと、ユーモアにあふれた会話が小気味良く紡がれているからこそ、実際に起こった事実の残酷さ、惨さを、心の奥底に沁みるように感じました。そして何より、戯曲の言葉の力強さに打たれました。この作品では、あらためて「生きる」ことの大切さ、いま、この時代にこうして日常を「暮らす」ことのありがたさに、そっと気づかされます。なにより、二度とこのようなことが無いことを願います。武豊で上演できることをたいへん嬉しく思います。ありがとうございます。皆様、ぜひいらしてください。



◆松井真人／父・竹造◆

(劇団あおきりみかん)

こんにちは、松井真人です。

この度、ゆめたろうプラザで「父と暮せば」を上演させていただくことになりました。本当にありがとうございます。

この作品は、戦後の広島を舞台にした娘と父とのお話です。

2022年ウクライナの事があり、この作品を上演することに決めました。演劇は平和でなければ上演そのものが困難になる芸術だと考えています。僕らが今、芸術を楽しめることは、平和であることが必要だと思っています。世界中の人々が、平和でありますように。世界中のあなたが、幸せでありますように。世界がまあるくありますように。

井上ひさしさんの戯曲「父と暮せば」を観て、あなたの中に何かが残れば嬉しいです。劇場でお会いできたら、うれしいです。

◆七星束子／娘・美津江◆

(青年団・劇団サカナデ)

美津江役で出演します、七星束子です。昨年に引き続き松井さん、鹿目さんと素敵なスタッフのみなさんと一緒にできてとても嬉しいです。

井上ひさし「父と暮せば」は昨年半年以上側にある戯曲で、ふとした時に想いを馳せると優しく包み込んでくれる戯曲です。この父と娘のごく個人的な会話が私自身がこれから生きていくための力になっていて、これはとても幸せなことだと思います。

重ねてきた月日の長さを背負って、今日の父と今日の劇場で過ごす時間を楽しみたいと思います。一緒に楽しんでいただけましたら幸いです。

公演情報

と き 2024年1月20日(土)・21日(日) 各日14:00開演
と ころ 響きホール(全席自由)
料 金 【前売】一般 3,000円 ゆめプラメイト 2,500円 25歳以下 1,000円
【当日】一般・ゆめプラメイト 3,500円 25歳以下 1,500円
取扱い ゆめたろうプラザ／チケットぴあ [Pコード 519-981]